平成30年度　第４号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年1月21日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

H30年度　保幼小連携活動研修会の流れ

～全ての小学校区で連携活動のさらなる充実を図る～

第1回　8月17日(金)　指導案作成研修会　計　画

↓

第2回　11月6日(火)　公開授業・保育研究会　実　践

（新舞鶴小学校、やまもも保育園、昭光保育園、シオン幼稚園）

↓

第3回　1月29日(火)　実践交流会　評　価

参加園/校

岡田保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	福井小学校
さくら保育園	池内幼稚園	余内小学校	三笠小学校
昭光保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	シオン幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
平保育園	志楽幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
タンポポハウス	橘幼稚園	倉梯小学校	与保呂小学校
なかすじ保育園	ひばり幼稚園	倉梯第二小学校	
東山保育園	三鶴幼稚園	志楽小学校	（50音順）
八雲保育園	舞鶴幼稚園	新舞鶴小学校	
やまもも保育園		高野小学校	
ルンビニ保育園		中筋小学校	
うみべのもり保育所		中舞鶴小学校	
中保育所			

昨年度に引き続き、舞鶴市教育委員会と合同で保幼小連携研修を実施しました。この研修では、協力園・校の小学校1、2年生担任と保育所・幼稚園の5歳児担任が1年を通じて（3回実施）一緒に学ぶ形で研修を実施しています。（上記図を参照）

第1回目は、グループワークにおいて、協力園・校ごとに昨年の連携活動の実践や反省を踏まえた今年度の年間計画に基づき、連携活動の指導案を作成しました。この指導案をもとに実践、記録、省察することが今年度の研修となっています。

8月17日　保幼小連携研修を実施しました

講　義　「学びの見える交流づくり」　講師：鳴門教育大学大学院教授　木下光二先生

カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである。　～木下先生　講義より～

＜指導案作成について＞

◎年間計画を持ち寄って研修に参加されていてよい。

◎カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである。

◎昨年の実践を踏まえて今年の評価、改善を図ることが大事である。

＜連携活動について＞

◎**“自然体”いい言葉。連携活動はありのままでよい。普段しないことをするから時間がかかるし、大変になり活動が続かない。**

◎連携活動のはじめに、小学校側からの挨拶や進行をしているところがある。いけなくはないが短くし、余った時間を活動に回すと仲良くなる。時間の無駄がなくなるように考える。

◎決まった・同じ活動をせずに改善したらよい。大きく変えることで何かが生まれてくるかもしれない。

◎一緒に活動し、一緒に遊び、一緒に作ることで互恵性になる。

◎いつもとは違う集団と交わることは大切である。幼児期以降に違う集団と交わる力をつけておくと人生の大事な宝物になる。

◎幼児期を幼児期として過ごしているか。幼児期にふさわしい保育・環境がそれぞれの園にあるか。保育者一人一人が変えられることがある。

◎自分から遊びを見つけて遊び込める子になって欲しい。**遊び込める子は学び込める子になる。**

◎何を学び、何が育ったかが大事である。そして、遊びと学びの可視化することが大事である。まずは記録を継続して取る。

◎連携の交流活動をしながらカリキュラムの連続性を図ることが接続になる。

◎カリキュラムを作ることだけが目的にならないようにしたい。保幼小がしっかり交わってそこで見えた学びがカリキュラムになっていくことが重要である。

◎互恵性を考えて、両方が夢中になる活動になるとよい。

【お店屋さんの活動】

◎小学校側だけがお店を出すだけではイベントで終わる。幼児も一緒にお店に出すものを作ることでコミュニケーションが生まれる。日々のコミュニケーションこそ大事である。小学生だけが一生懸命作っても、幼児にとっての互恵性が少ない。

【いもの活動】

◎算数の単元（3つの数の計算）に取り入れたことがある。収穫して食べる活動もよいが、ちょっとの工夫で様々な単元を入れることができる。

【かるたの活動】

◎ただ見つけるのだけではなく、学校の宝物を見つけ、見つけたもので俳句を作ったこともある。1つだけでなく、作れるだけ作ることにより、様々な視点からその宝物を見れる。1学期にすることでかるたづくりを通してひらがなを覚えることもできる。

◎厚紙を切って読み札と取り札を作り、みんなで取り合うことで気づきの共有になる。

【秋のフェスティバルの活動】

◎5歳児が入場する時に2年生からピアニカ演奏のおもてなしをしていたそうだが、自然体で会を進めることが大切である。

◎教員が手を出しすぎないよう、子どもたちが主体的に考えたことを会に活かしていく。

◎5歳児の緊張をほぐすため、また、会をもっとよくするためにゲームをしてから活動を深める。

＜学習指導要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針等の改訂について＞

◎4月から要領と指針は変わったが、保育をどう変えたかが一番大事である。

◎小学校は授業改善が求められている。2年後の全面実施に向けて、具体的にどのように授業を変えるのか。変化を語れないと変わらない。

◎保育においても小学校においても変えることのイメージを具体的に持つことが大事である。

◎小学校は幼児教育から“環境を活かす”ことを、幼児教育は小学校から“客観的に学びを捉えて、スモールステップで積み上げる”ことを互いに学ぶとよい。

◎今回の学習指導要領等の改定に向けての2つのキーワード

1. AL・・・アクティブラーニング
   幼児教育は毎日がアクティブラーニング。文部科学省は“主体的で対話的で深い学び”に変えた。
2. CM・・・カリキュラムマネージメント
   PDCAのCAがすごく大事。カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである

11月6日　連携活動　公開授業・保育を実施しました

やまもも保育園、シオン幼稚園、新舞鶴小学校で保幼小連活動公開保育・授業を実施しました。

今年度の連携活動は、1回目「シャボン玉あそび」、2回目「秋みつけ」の活動を経て3回目となり、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で作成した「あきのなかよしかいをしよう」の連携プランをもとに連携活動が行われました。

この研修で計画した連携活動プランに基づく活動は市内のどの協力園・校も実施することとなっており、参加してくださった教員や保育者の皆さんにとって大変学ぶことが多い内容となりました。

公開保育・授業の後はカンファレンスを行い、鳴門教育大学大学院教授　木下光二先生にご指導をいただきました。

参加園/校

岡田保育園	西乳児保育所	倉梯第二小学校
永福保育園	シオン幼稚園	新舞鶴小学校
さくら保育園	三鶴幼稚園	志楽小学校
昭光保育園	舞鶴幼稚園	高野小学校
相愛保育園		中筋小学校
タンポポハウス	朝来小学校	中舞鶴小学校
なかすじ保育園	余内小学校	福井小学校
八雲保育園	池内小学校	明倫小学校
やまもも保育園	大浦小学校	由良川小学校
ルンビニ保育園	岡田小学校	（50音順）
うみべのもり保育所	倉梯小学校	
中保育所		

公開授業・保育

［日　時］ 平成30年11月6日（火）10:00～11:30
［場　所］ 新舞鶴小学校
新舞鶴小学校1年1組33名・シオン幼稚園27名 （多目的ホール）
新舞鶴小学校1年3組33名・やまもも保育園15名（生活科ルーム）
新舞鶴小学校1年2組33名・昭光保育園23名 （10月30日実施）
［内　容］ あきのなかよしかいをしよう
［ねらい］
1年生
〇集めた自然物の中から使ってみたいものを選び、試したり工夫したりしながら、材料の特徴を生かしたおもちゃや楽器を作る。
〇みんなが楽しめるように、遊びのルールや約束を工夫する。
〇5歳児との交流を一層深め、人と関わる楽しさを感じ、思いやりの気持ちを育む。また、自分の取り組み方を振り返ることで、自分自身の成長に気付く。

5歳児
〇集めた自然物の中から使ってみたい材料を選び、作る楽しさに気付く。
〇1年生との交流を深め、人と関わる楽しさを感じたり、小学校へのあこがれの気持ちを育んだりする。
〇遊びのルールや約束を守り、友達と仲よく遊ぶ。
［公開授業・保育の様子］
10月に連携園・校と出かけた「秋みつけ」で見つけた木の実や葉っぱを使って、おもちゃ作りを各園・校で楽しんだ。1年生と5歳児がそれぞれ楽しんだおもちゃ作り、遊びを持ちより、コーナーを担当し、自分達で当番を交代しながら活動していた。1年生が教えたり手伝ったりする姿だけでなく、5歳児のコーナーでは5歳児が1年生に教えている姿も見られた。

振り返りの中で、子どもが工夫したことや気付いたことを伝え合い、学びを共有する場面もあった。

カンファレンス

幼児期の本質は個の育ち個の学び、生活科の本質は気付き発見が本質である
～木下先生　カンファレンスより～

【1年生担任より】
◎学年全体で取り組むが2組と昭光保育園は10月30日に実施し、そのことから学び、取り組むことができ複数学級の良さを感じた。
◎各コーナーやカード作り等子どもの思いで取り組むことができよかった。
◎5歳児と一緒ということでコーナー作りや遊び方を工夫する姿や交流する事で難しいところに気付き修正する姿も見られた。
◎子どもの様子から内容を変更して取り組んだことで遊びが発展した。
◎子どもたち同士については、一緒に作っている子どもたちの会話等、もっと交流できればよかった。
【5歳児担任より】
◎今回は3回目で子どもたちも慣れ、1年生に教えてもらい喜んだり、1年生に教えたりする姿も見られよかった。
◎1年生に優しくしてもらったことで、小学校への憧れの気持ちを持つことができた。
【木下先生より】
◎幼児期は個の育ち個の学び、生活科は気付き発見が本質である。
◎連携活動により、一人一人がどう育っているのか、何を学んでいるのかが大事である。
◎誰のどの学びが素敵だったかをよく見る。
◎振り返りで「〇〇君すごかったね」と先生が伝えることで子どもたちのモデルになっていく。
◎生活科は楽しくという導入だけではなく気付きが大事。前の連携活動で素敵な気付きがあったはず、先生がそれを導入で伝えるとよい。
◎振り返りでは、先生が今日の一番の気付きを伝える。
◎何をするか、どんな準備が必要かに目がいきがち、準備は必要ない普段の姿でよい。
◎子どもたちが必要な物は自分で集めればよい。
◎子どもの活動の時間を十分に持ってほしい。
◎コーナーではなく、まん中に材料を置くとどうなるか。子どもから作りたいと遊び出すと、どんな遊びが生まれるのか見ていくとよい。
◎生活科では、どんな子どもに育て、何を学んでいるか考え、自分で準備して自分で遊ぶ子に育てる。子どもは夢中になったらどんな材料も使う。
◎先生たちは“誰の、どの”という子どもの姿で語っていく。
◎幼児期の本質、生活科の本質は何なのかよく考えて、取り組んでいく。